

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部・研究科における国際交流方針を策定（設定）する。	→国際交流方針の明示（2013年度までに）。	C	C			
2. 策定（設定）した国際交流方針に基づいて、新たな国外協定大学を開拓し、既存の協定大学との新たな展開を図る。	→新規および新たな展開を図った協定大学数（2013年度までに2大学を目指す）。	C	C			
3. 全学的な学生交換制度や外国大学プログラムの利用促進を図る。	→留学生派遣および受け入れ人数。外国大学プログラムへの参加学生数。	B	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ○ 明示している ● 明示していない (方針) [明文化に至っていない]
	(説明) 国際交流は、将来構想委員会(学部)において検討項目に挙がっている。まずは既存の海外協定校との取り組みを充実させるといふ大枠の了解は得られているが、未だ具体的な方針を示すには至っていない。
★ 小項目 7.0.2	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 (説明) 現行、学術文化交流(学部および教員レベル)を意図して、ベルン大学神学部(スイス)および監理教神学大学校(韓国)と学部間(あるいは学部-大学間)協定を締結している。今後、その内容を充実するとともに、学部学生レベルの交流に展開を図ることが目下の課題となっている。監理教神学大学校については、2010年度に大学間において学生交換協定を締結するに至った。今後はその派遣あるいは受け入れの実績を重ねることに尽力していく。 海外研修への派遣については引き続き、実績をあげつつある。また言語教育におけるインテンシブ・プログラムの受講がその動機付けとなっているケースも少なくないと考えている。 ■ 海外研修参加者数： 2009年度・英語1名、2010年度・英語1名およびドイツ語2名、2011年度予定・英語1名および中国語1名。 ■ 英語インテンシブ・プログラム受講者数：2008年度・2名、2009年度・1名、2010年度・1名、2011年度・3名(サマー・インテンシブ[夏季集中科目]・2名を含む) ■ ドイツ語インテンシブ・プログラム受講者数：2008年度・7名、2009年度・5名、2010年度・10名、2011年度・10名(秋学期から受講を開始する人数は未定) 海外客員教員については、2011年9月にパーゼル大学(スイス)教授、ベルン大学(スイス)名誉教授、計2名の招聘を決定。学部および大学院授業の担当を依頼している。また、学術交流・研究を目的として本学部・研究科から海外へ派遣の教員は以下のとおりである。 ・学院留学・1名、2010年4月-2011年3月、ハイデルベルク大学(ドイツ) ・宣教師研究期間等・1名、2011年3月-9月、チューリッヒ大学(スイス)
	その他

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学部】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	2	2	2	2	2	2	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	2	2	2	2	2	2	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	-	-	-	-	-	-		
		外国人留学生	正規	人	0	1	1	1	0	0	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	0.0	0.7	0.8	0.7	0.0	0.0	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他(セミナー等による受け入れ)	人	-	-	-	-	-	-	-			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	-	-	-	-	-	-	累計数	
		人数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	1	1	3	0	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.8	0.7	2.2	0.0	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	1	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	1	0	0	1	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	6	7	6	3	4	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	-	-	-	0	0	0	・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%				8.3	9.1			

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

(その他の指標)
 協定校と相互交流数 (学生・教員)
 国別国際交流協定締結先機関数
 国別留学生数 (学部別) の経年変化

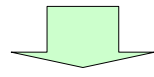
☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》**伸長させるための方策**



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

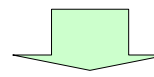
小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》**改善方策**



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎**自由記述**

《点検・評価》《次年度に向けた方策》

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. **学内第三者評価**

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○海外研修の参加や語学のインテンシブ・プログラムの受講が順調に進んでいるようです。国際交流の方針策定や新たな協定大学の開拓に向かって努力されることが期待されます。

【学内委員】

○小項目7.0.1の国際交流方針について、明示に向けた方策を示してください。小項目7.0.2について、「新たな国外協定大学の開拓」についての現状を説明することが望まれます。

○方針の策定が2013年度までの目標となっていますが、まずは全学の方針を踏まえた学部の方針を策定・明示することが国際交流を促進する上で必要と思われます。将来構想委員会で早期に検討されることが望まれます。

○7.0.2で「海外研修への派遣は引き続き実績をあげつつある」と説明されていますが、人数はほぼ横ばいのようです。「インテンシブ・プログラムの受講が動機付けとなっている場合も少なくない」という分析の具体的な検証が望まれます。検証結果によっては、インテンシブ・プログラムの受講を奨励することで、派遣希望の増加も見込まれるのではないのでしょうか。

○ここ数年ほぼ0だった海外からの教員受け入れが2名決定したことは評価できます。成果が検証され、今後引き継がれることが期待されます。

○目標の進捗と達成が求められます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・海外への派遣学生はあまりにも少ない。方針を策定し明示されることにより国際交流が促進されることを期待します。

・小項目7.0.1について、「改善すべき事項」とまでは言えないものの、「明文化」までのステップ(ロードマップ)をもう少し具体的に示すことが望まれます。

・国際交流が活発であるとは言えない状況で、改善すべき事項はないのでしょうか。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目7.0.2における現状説明について、本学のインテンシブ・プログラムは、語学教育について訓練されたネイティブ教員により担当され、通常の語学科目と比べてさらに実践的・体系的な語学の修得を目的としている。その受講者がさらに実践的な学習を期待して、あるいは海外の舞台で実力を試すため、海外研修（英語・ドイツ語研修）に参加していると考えている。